

学部等名	教養学環
------	------

1. 教育目的・使命の明確化

学部等がどのような人材を育てたいのか、その方向性が明確かどうかを確認します。

1-1. 当該学部等の教育理念・目的が大学全体の方針と整合しているか記載してください。
教養学環は、東京工科大学の教育理念に基づき、国際的教養、語学力、社会人基礎力を体系的に育成する教育を展開しています。また、専門科目の学修を支える基礎力を培うことで、実社会で活躍できる実践的指導的技術者の育成に貢献しています。これらの取り組みにより、大学全体の教育方針と密接に連携した教育を実現しています。

1-2. 社会的ニーズや地域との関係性を踏まえた教育の方向性を記載してください。
教養学環は、技術の進化と多様化が進む現代社会に対応するため、最先端の情報を柔軟に取り入れた基礎教育を行っています。また、社会人基礎科目や社会連携科目（サービスラーニング、海外プログラム）を通じて、地域社会の課題や国際的な問題に向き合い、実践的な知識の応用力を育成します。これにより、地域と協働しながら社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

1-3. 教育目標が学生や教職員に周知されているか記載してください。
教養学環では、教育目標や育成する人材像を明確に定め、大学 Web サイト、シラバス、ガイダンスなどを通じて学生・教職員に周知しています。とくに、社会連携科目（サービスラーニング、海外プログラム）やウェルビーイング科目における集中実技については、具体的な活動内容や教育の意図を、blog 等を通じて学内外に発信しており、教育目標の理解促進につながっています。

自己評価	
ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した イ. 前年どおりである又は特に問題はない ウ. 改善・修正が必要な点がある。	イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

2. 内部質保証体制の整備

3つのポリシーを起点とする教育の質を自ら点検・改善する仕組みがあるかを確認します。

2-1. 学部内における質保証の組織体制（委員会、責任者など）を記載してください。

教養学環では、教育の質を継続的に維持、改善していくために、各科目群のワーキンググループや教務委員会において、教育目標やカリキュラムの達成状況を定期的に自己点検・評価しています。それらの結果はアゴラでの報告と、さらなる議論を通して学環全体で集約し、教育改善に活用しています。

2-2. 内部質保証のための自己点検・評価の実施状況とその結果の共有について記載してください。

教養学環では各学期の授業アンケートを基に、科目群ワーキンググループごとに振り返りや議論を行い、改善策を提案、実施しています。それらの結果はアゴラにおいて報告され、共有されています。また、アゴラでは教員が普段の研究やFD等の活動報告を行うことで、教員の自己研鑽の成果を相互確認、評価しています。

2-3. IR（Institutional Research）によるデータ収集・分析の活用を記載してください。

教養学環ではIRセンターと連携し、学生の学修成果や履修状況、授業評価等のデータを収集・分析しています。これにより、教育課程の改善や学修支援の充実を図るとともに、自己点検・評価の根拠資料として活用し、教育の質保証に資する体制を整えています。

2-4. 学生・学外関係者の意見・要望をくみ上げる仕組みと分析結果を教育研究の向上に生かす努力について記載してください。

教養学環では授業アンケートやガイダンスに加えて、語学や社会人基礎科目などの少人数授業、社会連携科目（サービスマーケティング、海外プログラム）、ウェルビーイング科目における集中実技、学修支援センターでの聞き取り等を通じて学生・学外関係者の意見や要望を収集しています。これらの声はIRによるデータ分析と併せて科目群ワーキンググループ、アゴラで検討され、教育内容や研究活動の改善に反映されています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

3. 教育課程の編成・実施

学生が体系的に学べるように教育課程が設計・運用されているかを確認します。

3-1. 3つのポリシーの策定状況と周知方法について記載してください。

教養学環では、全学で定められたディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3つの方針に基づき、教育課程の設計と学修成果の評価指針を策定しています。これらのポリシーは、Web サイト、シラバス、学生ポータルなどを通じて学生・教職員に周知されており、教育の質保証と継続的な改善に活用されています。

3-2. カリキュラム・ポリシー（CP）に沿った体系的な教育課程を編成し、実施しているか記載してください。

教養学環では、東京工科大学のカリキュラム・ポリシーに沿って、人文社会、自然科学、外国語などの科目を体系的に配置し、多様性理解や情報活用能力、データサイエンスの素養を育成しています。さらに、海外実習、社会人基礎科目、社会連携科目を通じて、地域社会との関わりや国際的な視野を広げるとともに、課題解決に向けた実践力を養い、学生の主体的・能動的な学修を促す教育課程を編成・実施しています。

3-3. ディプロマ・ポリシー（DP）を踏まえた単位認定基準、進級基準などの学修成果の評価方法を適切に定め、周知し、厳格に適用しているか記載してください。

教養学環では、東京工科大学のディプロマ・ポリシーに基づき、学修成果の評価方法として明確な単位認定基準や進級基準を定めています。これらは学生便覧やシラバス等で周知され、成績評価に厳格に適用されています。これにより、学修成果の可視化と教育の質保証に資する体制が整備されています。

3-4. 教授方法の工夫（アクティブラーニングなど）と効果的な実施について記載してください。

教養学環では、社会人基礎科目、社会連携科目（サービスラーニング、海外プログラム等）を中心に多くの講義においてアクティブラーニングやPBL（課題解決型学習）を積極的に導入し、学生の主体的な学びを促進しています。これにより、論理的思考力や問題解決能力、協働的な姿勢が育まれ、実社会において求められる力を着実に身につけることが可能となっています。

3-5. 3つのポリシーを踏まえた学修成果の把握と評価方法について記載してください。

教養学環では、3つのポリシーに基づき、講義・演習・実習を通じて学修成果を多面的に評価しています。各科目のシラバスに明記された評価方法に従い、定期試験やレポート、小テスト、発表等を組み合わせて厳格に判定しています。

自己評価

- ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した
- イ. 前年どおりである又は特に問題はない
- ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

4. 教員の体制と能力開発

教員が教育・研究の質を高めるための体制と取り組みがあるかを確認します。

4-1. 教員の採用・昇格基準の明確化について記載してください。

教養学環では教員の採用・昇格に関して、研究業績、教育能力、大学運営への貢献実績などを基準とした明確な規程を整備しています。これらの基準は、学長と人事委員会の承認を受けたうえで教授総会において正式に周知され、会議資料の形で学内に共有されています。そのうえで、昇格審査は人事委員会等の審議を経て、公正かつ厳正に実施されています。

4-2. FD (Faculty Development) 活動の実施状況について記載してください。

教養学環ではアゴラ開催や全学教職員会への参加、授業点検および授業参観の実施など、大学全体の FD 活動方針に沿って、授業改善や教育の質向上を目的とした FD 活動を継続的に実施しています。また、各教員は外部機関の FD 研修、先進教育支援センター主催の講習会にも積極的に参加し、その内容はアゴラ等の公式な場所だけではなく日常での情報交換などにより共有されています。

4-3. 教員の教育・研究活動の成果と評価について記載してください。

教養学環では、教員の教育・研究活動に対し、授業評価アンケートや研究業績の自己点検・評価を通じて成果を把握しています。これらの結果はアゴラ等の FD 活動や人事評価に反映され、教育の質向上や研究力強化に活用されています。また、外部評価や学内委員会による審査も行われ、透明性と公正性が確保されています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した

イ. 前年どおりである又は特に問題はない

ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。

5. 独自基準（学部の特徴）

学部が持つ独自の強みや個性、特色を確認します。

5-1. 学部が個性・特色として重視している領域について記載してください。

教養学環には、語学、ウェルビーイング、人文社会、自然科学、数理・情報科学など、幅広い分野を専門とする教員が所属しており、専門の垣根を越えて議論や情報交換を行う土壌が形成されています。実例として、八王子 3 学部の必修科目であるアカデミックスキルズには多様な分野の教員が参画し、共同で運営を行っています。このように、教養学環では教員間で多様な価値観を尊重し合う文化が根付いており、それを教育に反映できる点が際立った特色となっています。

5-2. 他大学との違いを示す取り組みがあれば記載してください。

サービスラーニングや海外実習、ウェルビーイング科目の集中実技においては、学外での活動を中心とした多様なプログラムを展開しており、リアルな国際体験や地域活動の体験に加え、事前学習や振り返りの議論を通じて、学生が将来自身の専門性を実社会で活かす力を養うことを目指しています。

また、全学的に展開されている「データサイエンス入門」は、文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けており、単なる統計学の授業にとどまらず、各学部の教員との連携のもと、幅広い分野におけるデータ分析の応用事例を紹介しています。

これらの取り組みは、教養組織として独立していることに加え、教養学環所属教員が日頃から学部教員との連携を意識した活動を行っていることによって実現されています。

自己評価

ア. 課題を改善した又は新しい取り組みを実施した

イ. 前年どおりである又は特に問題はない

ウ. 改善・修正が必要な点がある。

イ

上記、「ア」を選択した場合、改善した課題又は新しい取り組みを記載してください。

上記、「ウ」を選択した場合、改善、修正案を記載してください。